リハビリテーション西播磨病院だより

ひかりの都

2026年
9月発行



写真:秋景(八甲田山)

ご挨拶



リハビリ療法部　部長　岡野 生也

日中は残暑なお厳しい折ですが、朝夕には涼しさも感じるようになりました。

日頃より、兵庫県立リハビリテーション西播磨病院の運営にご支援とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

さて、当院では来年の２月に公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審することが決まっています。現在は、その受審に向けて院内の様々な部署が協力して準備を進めています。初回の受審が 2017年となり、５年ごとに更新の受審をし、今回が３回目となります。病院機能評価は、時代の変化に対応し、定期的に評価方法がバージョンアップされています。病院の質の向上につながるように、医療安全や感染対策、診療体制、患者サービス、組織運営など幅広い項目について厳正な審査が行われます。審査を受け、認定をいただくことは大切ですが、各評価項目の一つひとつに真摯に向き合い、部署の垣根を越えて改善に取り組んで行くことが、真の効果があると実感しています。今回の準備を通じて得られた気づきや改善の成果を日々の診療や業務に生かし、患者さんや地域の皆さまからさらに信頼される病院を目指していきたいと考えています。

医療業界では、厚労省が 2025年のあるべき姿としての「地域医療構想」が成され、今後 2040年を見据える「新たな地域医療構想」の策定に向けた取り組みが始まっています。この構想では、在宅医療の領域や介護との連携をより強固にした、地域完結型の医療・介護提供体制の構築を考えているとのことです。つまり、在宅復帰を目指すということで、当院としては今までの蓄積された知識や経験を活かし、集中的なリハビリテーションを提供する医療機関として、地域ニーズに応じた診療ができるように努めていきたいと思います。

今後も職員一丸となって質の高い、温かなリハビリテーション医療の提供に努め、地域医療の発展に貢献してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

発行･編集▶兵庫県社会福祉事業団リハビリテーション西播磨病院　〒679-5165 兵庫県たつの市新宮町光都1丁目7番1号　TEL(0791)58-1050　FAX(0791)58-1071

普段着の私

総合相談･地域連携室　河井 優希

7月初旬、バレーボールの国際大会である、VNL（バレーボールネーションズリーグ）の予選ラウンドが大阪で開催されました。大阪での開催は今年が初めてということで、Asueアリーナ大阪まで行ってきました。

小学２年生から６年生までバレーボールに打ち込んでいたこともあり、バレーボール観戦はとても大好きな時間です。

男子バレー、女子バレーともに観戦をするのですが、今回は女子の日本対タイ戦の会場に行きました。



テレビでゆっくり観戦するのも好きですが、実際に会場に行くことで、会場ならではの臨場感や迫力を味わうことが出来ます。

席も良くて、選手の表情までしっかり見ることが出来ました。またエースが決めるシーンは、見ている方も最高に嬉しい気持ちになります。

日本代表の選手が活躍している姿を見て、私自身も刺激をもらうことが出来ると同時に、「私もまたがんばろう！」という気持ちになることが出来ます。

自分がプレーヤーの時は、「この選手みたいに上手になるにはどうしたら良いかなぁ」と考えながら観戦していましたが、今は「日本が決めた！勝った！嬉しい！」と楽しみながら観戦をしています。

見方は変わっても、バレーボールは私にとって大好きなスポーツの一つであり、観戦する時間はとても楽しい時間です。



薬剤部長　向井 茂人

昨年、自治会の役員が回ってきてしまいました。引き受けたからには腹をくくって臨みますが、普段は挨拶を交わすくらいのご近所さんと協力しながら運営していかなくてはなりません。周りとの接点が少なくなっている時代ならではの難しさがあり、不安だらけのスタートでした。

役員には、近隣のコミュニティや老人会などの行事参加や定期パトロールでの見回り、防災訓練や地域清掃活動の実施など様々な役割があります。分からない事が多い中、諸先輩方に相談し、時には厳しいご指導いただきながら何とか駆け抜けました。ようやく任期を終えてほっとしましたが、こんな機会でも無ければ体験しなかったことばかりで良い経験になったと思います。

ここ数年で、住んでいる地域はニュータウンと言いながらも高齢化が進んでおり、役員の成り手不足から自治会の運営が難しくなってきているそうです。管理業務の一部を外部委託したり、役員や住民の負担軽減策を講じたりと、さながら職場内での人手不足対策の様です。身近な所にも「持続可能な社会」の実現に向けた課題があるものだと実感しました。



honoka
sweets and bread

赤穂精華園やまびこ寮honokaです。honokaでは、就労継続支援Ｂ型事業所として、パン、焼き菓子、ドーナツ等の製造、販売を行っています。西播磨総合リハビリテーションセンター様におかれましては、月に２回販売を行い、多くのお客様にご利用いただいております。これからも引き続き、よろしくお願いいたします。

honoka専用インスタグラムもあります。
最新情報をこちらのQRコードからご覧ください。





お問い合わせ先住所：赤穂市大津 1327　赤穂精華園やまびこ寮内
電話：0791-56-9660（honoka 専用）
営業時間：9：00 ～ 17：00　年中無休（年末年始除く）





クイズの答え　② リス



ワーキング活動　排泄ケアチーム

「日本老年泌尿器科学会」に参加してきました！

5月末に石川県立音楽堂で開催された「日本老年泌尿器科学会」に参加してきました。そこで、排泄ケアワーキング活動の一環として、東病棟で行っている看護研究について発表を行いました。東病棟には脳卒中や骨折などで急性期治療を終えた患者さんがリハビリテーションを行うために多く入院しています。中には急性期病院で留置していた尿道カテーテルが尿閉などを理由に抜去できず留置されたまま転院となって来られる方もいます。もしくは、急性期病院でカテーテルを抜去したが当院に入院した際に残尿が多くカテーテルを再留置することになった方もいます。排泄行動は自宅退院において大きな課題となります。「自分でトイレに行ってほしい」「おむつ交換は家ではできない」と言われるご家族も少なくありません。

また、一般的に「尿道カテーテルは感染源になるので早期抜去するべき」という考え方が浸透しています。しかし、当院では無闇にカテーテルを抜去するのではなく、適切な時期を見極めてからカテーテルを抜去する方針を取っています。この適切な時期というのは患者さん毎に異なります。そこで、身体機能、認知機能、患者の意欲をそれぞれ数値で評価して安全にトイレで排泄できるタイミングを複数の視点から検討するということを研究しています。この研究が患者さんやそのご家族の一助になることと共に、病棟で働くスタッフが安心してカテーテル抜去を行い、トイレでの排泄援助ができる指標に繋がることを期待して取り組んでいます。

一緒に学会参加したワーキングメンバーと最新の知見を学びつつ、美しい金沢の街を散策してリフレッシュすることもできました。患者さんやそのご家族が安心して退院後の生活を送ることができるように今後のワーキング活動を充実させていきたいと思います。



西播磨フロンティア祭 2026 に出展します！

播磨科学公園都市の賑わい創出と西播磨地域の連携・交流の促進を目的に「西播磨フロンティア祭 2026」が開催されます。今年度も西播磨総合リハビリテーションセンターからは、福祉用具展示ホール「コム・プラザ」が数々の福祉用具や介護ロボットの出張展示を行います。コミュニケーションロボットとの触れ合い、シニアカーや電動車いすの試乗、自助具による豆つかみ体験など、様々な福祉用具を「見て、触れて、試して」もらえる機会になればと思います。

また、当日は、福祉用具や介護ロボットにかかる相談も受け付けています。「福祉用具は、どうやって選べばいいのかわからない」「どこで購入できるの？」「レンタルはできるの？」など、疑問や悩みのある方は、お気軽にご相談ください。

皆さんと出会えることをスタッフ一同、心待ちにしています。ぜひ、西播磨総合リハビリテーションセンターのブースにお立ち寄りください。

【西播磨フロンティア祭 2026】

日程：令和8年 10 月 24 日（土）　10：00 ～ 15：00

※少雨決行

会場：播磨科学公園都市　芝生広場（赤穂郡上郡町光都）

前回出展時の様子

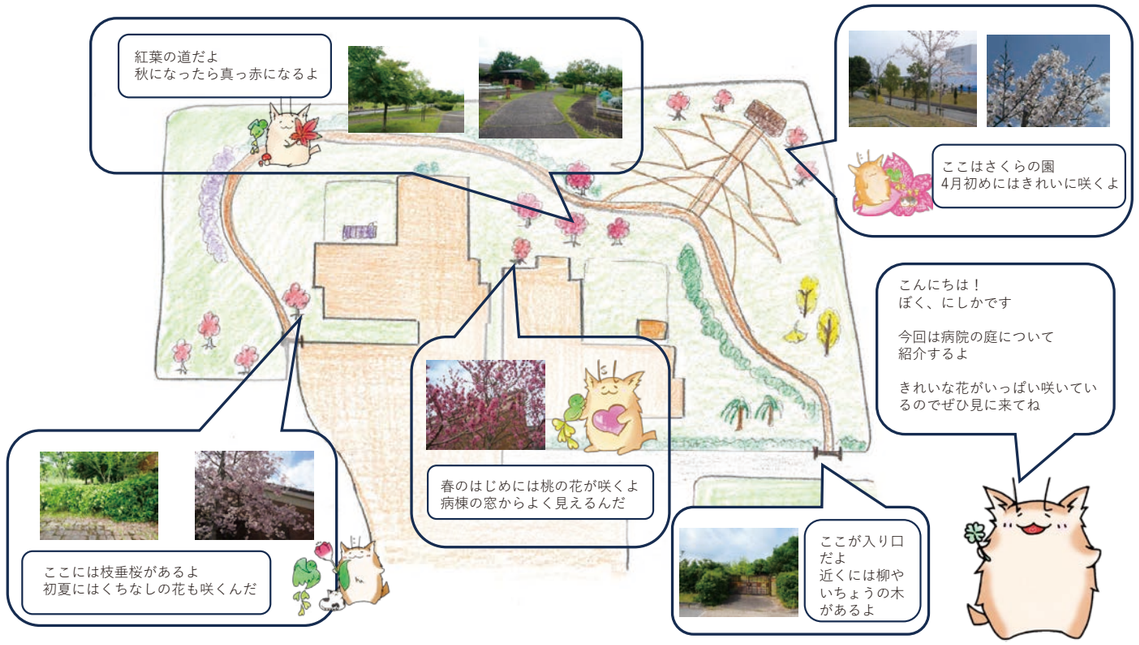


コミュニケーションロボットとの触れ合い



杖や靴の情報提供

西播磨リハの敷地をご紹介します！



西播磨リハクイズ！

兵庫県立リハビリテーションセンターでは通年を通して美しい風景が広がっており、入院患者さんは、リハビリ時間や自主訓練で気持ち良い風を感じながらリハビリに取り組んでいます。







答えは4面



噴水横の芝生には見つめ合うように3体のかわいい像があり、入院患者さんの中には毎日歩行訓練もかねて「おはよう。」と挨拶をすることを日課とされている患者さんもいます。

皆さんも逢いに来てくださいね！